

上村松園 《序の舞》

東京藝術大学所蔵

原画制作 1936年

切手発売 1965年 「切手趣味週間」、10円切手

上村松園（1875-1949）は近代を代表する美人画の名手であり、女性として初の文化勲章を受章したことで知られる日本画家です。

《序の舞》は松園の代表作、また近代の美人画の最高傑作として名高く、重要文化財にも指定されています。

能楽「序の舞」が主題です。江戸中期の風俗をなぞった着物の紋様、鮮やかな朱色、無背景の中を毅然と舞う女性の凛々しさは、「何ものにも犯されない、女性のうちにひそむ強い意志を、この絵に表現したかったのです」という作者のことに裏付けられています。

なお、松園は「平成11年文化人」シリーズ（1999年発行）においても、肖像写真が切手の図柄に採用されています。（同シリーズは、上村松園、川端康成、葛飾北斎の3名の肖像写真がそれぞれ80円切手の図柄に使われました。）